

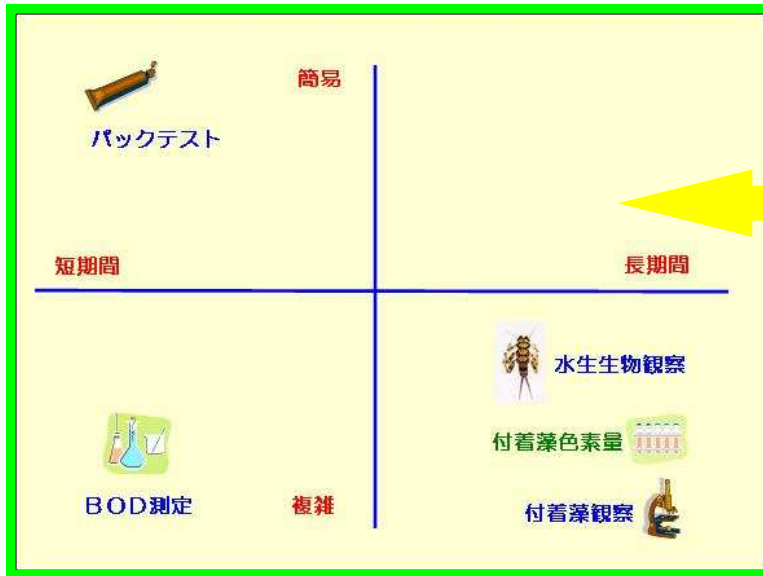
## 付着藻類を用いた、新しい河川水環境評価方法の検討

河川水質は公共用水域調査により定期的に監視が行われており、環境基準（BOD）の達成率は 91% と高い値となっています。しかし、BOD 測定値は河川の一时的な水質を評価しているに過ぎず、河川環境に対する感覚的評価とかけ離れている可能性があります。

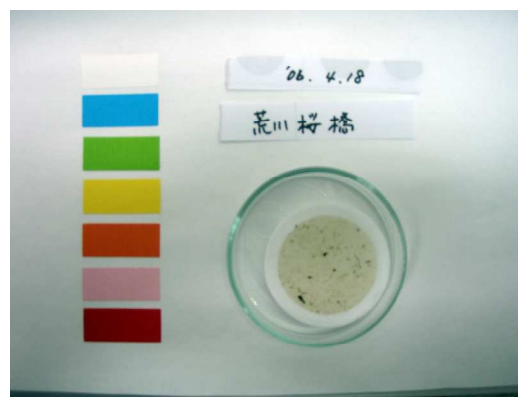
また BOD の測定は特別な設備を必要とし、市民の皆さんが測定することができず、簡単にデータを蓄積することもできません。

一方で、生態系を含めた河川環境の評価指標として、水生生物や付着藻類組成を用いた指標生物法があります。しかし分類や同定にある程度専門的な知識を必要とし、こちらも容易に取り組むことができないのが現状です。

そこで、付着藻類を用いた、より簡易な測定法の開発を試み、河川の評価に適用可能かを併せて検討することを目的として研究を進めてまいります。



河川のいろいろな水質評価方法



具体的には・・・

石などの表面についた藻類をこすり取り、その色や量、臭いなどを比べるところから始めます。

### 期待される成果

- 1 河川の水環境の簡易測定法を提案することにより、市民が身近な河川の評価を行いやすくなります。
- 2 その結果、河川環境への関心を高めることができ、環境保全活動の一助になることが期待されます。